

# 平成28年度全国学力学習状況調査

## 調査結果の概要について

～ 帯広市立大正小学校における調査結果 ～

平成28年4月19日に実施された本調査の結果についてお知らせします。

調査結果については次の点に留意してお読み下さい。

- ・本調査の結果については児童が身につけるべき学力の一部であり、本校の教育活動の一側面を表すものです。
- ・平均正答率・正答数などの数値は公表しませんが、本校の回答状況や提供されたデータを総合して分析・評価した結果を公表します。
- ・引き続き、児童個々の回答状況や個々の設問に留意し課題を分析し、一人ひとり状況に合わせ、学習意欲の向上などにつとめていきます。

## 1 調査の概要

実施日 平成28年4月19日（火）

調査対象 小学校6年生（18名）

## 2 調査結果の概要

### ○教科に関する調査

教科	平均正答率の全国との比較	下位層(※)の分布
国語 A	全国平均を上回る	全国より少ない
国語 B	全国平均を上回る	全国より少ない
算数 A	全国平均をやや下回り全道と同程度	全国より少ない
算数 B	全国平均をやや下回り全道を上回る	全国よりやや多い

※下位層 得点が全国平均の下位25%に位置する相対人数比率です。12月26日に下位層の相対人数の入力計算に一部誤りが見つかり、国語B、算数Aの下位層が全国より少なく、算数Bも全国と大きくは変わらず「多い」から「やや多い」とし、全体として良い傾向にあることがわかりました。訂正しお詫び申し上げます。

### ○教科の結果について特徴的な点

#### 《国語》

- ・国語Aは話すこと・聞くこと・書くことについては良好であるが、ローマ字読みに課題が見られる。
- ・漢字の読み書きは良好である
- ・国語Bは話すこと・聞くこと・書くことが良好だが、読むことに課題が見られる。

#### 《算数》

- ・算数Aは「量と測定」が良好であるが、「数と計算」に課題が見られる。
- ・算数Bは「数量や図形についての技能」は良好であるが、「数量や図形についての知識・理解」に課題が見られる。

#### 《教科全体所見》

- ・国語・算数ともに無回答は極めて少ない。

## ○児童質問紙回答に関する結果

### 《全道・全国に比べ望ましいと思われる傾向》

- ・国語の学習を「好き」と答えた子どもが多い。
- ・国語の発表の伝え方を工夫している子どもが多い。
- ・「家庭で計画的に学習している」子どもの割合は高い。
- ・授業の目標とまとめが示されノートに書いていると答えた子どもが多い。
- ・「家庭で全ての子どもが宿題」をしていると答えた子どもが多い。
- ・自分の考えを発表する機会が与えられていると答えた子どもが多い。
- ・相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを伝えていたと答えた子どもが多い
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれると考える子どもが多い。
- ・読書をする子どもが多く、「好き」と答えた子どもが多い。
- ・新聞を読んでいる子どもが多い。
- ・学校のきまりを守っている子どもが多い。
- ・友達との約束を守っている子どもが多い。
- ・毎日、同じくらいの時間に起きている子どもが多い。
- ・今住んでいる地域の行事に参加している子どもが多い。

### 《全道・全国に比べ課題と考えられる傾向》

- ・算数の学習を「好き」と答えた子どもは、全国・全道よりやや少ない。
- ・算数の新しい問題に出会ったとき、解いてみたいと思う子どもの割合が全国・全道より低い。
- ・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと考えている子どもの割合がやや多い。
- ・学習の振り返りの活動を行っていたと考える子どもの割合が全国・全道より低い。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると答えた子どもの割合がやや低い。
- ・学校以外の学習時間が、全国・全道より少ない。
- ・「自分にはよいところがある」と考えている子どもの割合がやや低い。

### 《テレビ視聴・DVD 視聴傾向》・・・良好である。

- ・全国・全道と比べて、1時間未満は少ないが2時間以上の長時間視聴も少ない。

### 《ゲーム》・・・やや課題である。

- ・全国・全道と比べて、1時間未満及び2時間未満は全国よりやや少ないが3時間以上の長時間も少ない。



### 3 今後の取組について

これまで継続してきた取組が学力向上に結びつきつつあると評価しています。また地域・家庭と連携した取組（規則正しい生活、家庭学習、地域の人に学ぶなど）は学習や生活の構えを作り、素直に努力する態度を向上させていると考えられます。児童質問紙の回答では各教科に対する学習意欲や学習を大切に思う価値観が高まっていることが読みとれます。

また、本校学習常規を徹底することや漢字学習等の継続した取組は、基礎基本の定着に効果を上げていていると考えています。

本校がこれまで継続してきた指導を今後もぶれることなく継続していくことが大切であると考えています。今回の調査で明らかになった課題については以下の方策でさらなる向上を目指します。

#### 《国語》

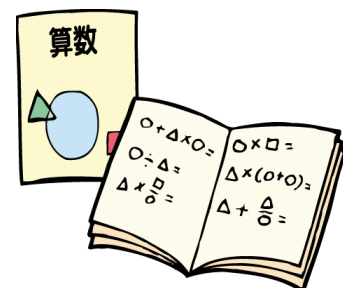
- ・読みとりの「ひとり学び」「話し合い活動」とともに継続して取り組む。
- ・漢字検定の取組や読書活動の充実など家庭やボランティアとの連携を深めながら読書の質と量の充実を図ります。

#### 《算数》

- ・児童の理解に応じた教材の活用や空間を意識させる算数的な活動を充実させます。
- ・他領域・他教科との連携を図り、基礎的な知識・技能を活用する学習活動を設定します。

#### 《教科共通》

- ・授業の振り返りの学習を充実させます。
- ・家庭と連携し家庭学習の質・量の充実を図ります。どの児童も学年×10分が達成できるよう働きかけます。さらに、児童が自分から計画して学習できるよう支援します。
- ・漢字や計算など基本の基本は繰り返し学習を通じて身につけさせます。
- ・学校の全ての教育活動を通じて、安心して学び楽しく過ごせる学校となるよう指導の充実につとめます。
- ・整った学校環境の整備や豊かな人間関係を基盤に、安心して学べる学校作りにつとめます。



## 4 各教科の領域別正答率

このグラフは教科の領域ごとに全国及び北海道の正答率と本校の正答率を比較するものです。外側に位置するほど全国より正答率が高いことを示します。できあがった図形のでこぼこは全国平均と比べた得意・不得意を示しています。

